

ホテル火災 シミュレーションゲーム攻略法 (中)

自治省消防庁
予防救急課 小林 恭一

4 防災センターで

(1) 「逃げる」場合

自火報のベルが鳴り出した際の対応として、「逃げる」という選択肢があります。防災センターに夜間勤務している時、自火報のベルが鳴ったからといって逃げてしまう人がいるわけがないという人がいたら、それは勉強不足です。過去の火災事例の中には、逃げこそしなくても、何をしたらよいかわからずに段階を上がったたり降りたりしていただけだった、などという例は幾つもあるわけですから、この選択肢についての説明では、実際の火災の際のひどい例などについてふれると良いでしょう。

なお、この選択肢を選んだ際の終わり方

は、チョット工夫してあります。初めて見る人は、大抵「アッ」と言って喜びます(ただし初めての人だけですが)から、一度はこの袋小路に入ってみるのも良いでしょう。ただ、また初めからやり直しになってしまいますので、時間のない時はやめた方がよいかもかもしれません。今後改善するとしたら、初めからやり直しにしないようにすることも考えたいと思います。

(2) 119番通報について

「119番通報」を選択しますと、典型的な消防の指令台の応対を経験できるようになっています。ただ、今回消防機関に送ったソフトでは、火災かどうかの確認をせずに119番通報をすると、「火事かどうか

確認してからもう一度通報してください。」と言われてしまいます。これは、実はかなり異論があるかもしれない措置だと思えます。このような通報が入った場合の措置としては、確認を指示する一方で、とりあえず消防車を出動させるようにしている消防機関が多いと思うからです。それにもかかわらず「このゲームでは火災未確認のとき消防隊は出動しないこととしています。」という処理をしているのは、消防隊に早く連絡すると早く到着してしまうので(当然前ですが)、被害が極端に少なくなり、不当に有利になってしまうからです。

このあたりは、それぞれの消防機関の、この種の通報に対する対応方法を踏まえて

補足説明を適宜行ってください。

119番通報に関してもうひとつ。

このゲームでは、「あなた」は、必ず現場に行かざるを得ないようにできています。

「あなた」が効果のある119番通報をする場合は、火災確認後、防災センターに戻って来て行う場合に限られますが、時間がかかりますのであまりおすすめできるストーリーではありません。

実を言いますと、当初は「あなた」は、火災現場に確認に行く役と、防災センターに残って119番通報や非常放送をする役とを選択できるようにしていたのです。そうすれば、きちんとした防災センターでの対応の教育にもなるからです。しかし、残念ながら、コンピュータの容量不足のために、防災センターに残る役の方は、全部カットしてしまつたのです。もしバージョン・アップ版を作るときには、フロップピーデイスクから途中でもう一度ロードするようにしてもよいから、両方の役が選択できるようにしたいと考えています。

(3)非常放送について

非常放送については、(もしするのであれば)

「確認中であることを伝える」放送を行うのが正しい選択ということになりますが、ここではもう一つ、確認もしないのに「ベルの誤報を伝える」放送を行う選択枝を作っております。このような



予防救急課発行のシミュレーションゲーム使用説明書

絶対にしてはならないことをしたわけですから、「あなた」には厳しいペナルティーが待っています。アツと言う間に、1分間火災が進行してしまうのです。(ここでも、避難開始の確率を落とす等、より実態に即したペナルティーとすることも考えたのですが、容量の節約のためこのようにしています。)

ここでは、火災確認をせずに誤った非常放送をしたことよって避難開始が影響を受けた例として、川治プリンスホテルの火災などの話をするとうまいでしょう。

(4)受信機について

(4)1 地区ベルの停止について

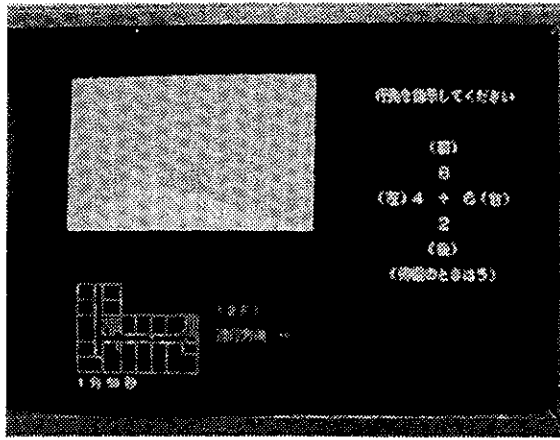
ここでは、地区ベルを止めるかどうかの一つのポイントになります。深夜のことですから、地区ベルを鳴らしつばなしで確認にいくことは、非火災報の確率を考えると現実には難しいと思います。そう考えた場合には地区ベルを一旦止めることになるのですが、ベルを止めたら、もし本当に火事だということが判った時にはすぐにまた鳴らすことができるようにしておかなければなりません。他の従業員を起こしたり、トランシーバーを持って行ったりするのは、一つにはそのためもあるのです。逆に言えば、そのような体制も用意せずに地区ベルを止めて火災確認に行つてはいけないということですね。この辺で、この種の知識を火災事例を示しながら(これに関する事例については今更言うまでもないでしょう)十分に説明していただけたらと思います。

(4)2 地区表示灯について

地区表示灯の確認は、順番はともあれ、必ず行わなければなりません。そうしないと、火災確認に行こうとしても、どこに行ったら良いか判らないからです。1〜2度失敗すれば、このことは、このゲームでは簡単に覚えられますが、実際の火災の場合には表示地区を火災確認行動中に忘れてしまうというようなことをしたら致命傷になることがあることなどは話しておくが良いでしょう。

(5)他の従業員について

火災確認に行く前には、仮眠中の他の従業員を起こさなければなりません。起こさ



ゲーム中の一コマ

ずに一人で確認に行くことも出来ませんが、火災を発見した後、119番通報をするにも、避難誘導をするにも大変な苦勞をすることになることは、やってみればすぐわかりになると思います。

また、起こされた従業員が防災センターにやって来るまでに十数秒が経過します。これは、仮眠所となっている控室が防災センターから遠い位置にあるからですが、この時間が本当の火災の場合にも大きな意味を持つことがあること、この時間を短縮しようと思つたら、防災センターと控室とを接近させれば良いことなどを説明しておくといひでしょう。

(6)道具について

道具については既に2で説明していますので重複は避けませんが、ここの操作はやや複雑なので改善の余地がありそうです。

5 防災センターから火災現場まで

(1)歩き方について

防災センターから一步外に出ますと、急に廊下の景色が見えます。この景色と、下の平面図上の「あなた」の位置を表わす点と、進行方向を表わす矢印の三つを頼りに、テン・キーを操作して「あなた」は歩き始

めます。

この操作がこのゲームの最大の難所であることは、既に何度もやっている方々にはおわかりでしょう。進行方向とテン・キーの操作とを感覚的に一致させるのに多少の慣れを要する上、右を向いたり後ろ向きになったり歩いたりする動作をするのに、入力後かなりのタイムラグがあるからです。

慣れないと、「右を向け」と入力しても矢印がなかなか右を向かないので、もう一度「右を向け」と入力してしまい、結局矢印が後ろを向いてしまったりするわけです。

若干の熟練と辛抱強さがあれば、「あなた」はちゃんと歩けるようになります。せめてこのゲームの説明にあたる操作者は、十分熟練しておいていただけたらと思います。

(2)エレベーターについて

ようやく歩けるようになって、やっと思いでエレベーターまで辿り着くと、コンピュータは「乗りますか?」と聞いてきます。「やれうれしや」と飛び乗ると、結果はご承知のとおりです。

火災の時には、普通のエレベーターを使わないのは鉄則ですが、火災確認の際にま

では徹底していないので、消防機関の方々の中にも、このゲームを初めてやった、時こて死んでしまった方がかなりあるようです。

火災確認の時には分秒を争いますから、エレベーターを使いたくなる気持ちは判りますが、このゲームのような事態も起こり得るわけですから、ゲームの中でもコメントしておいたように、非常用エレベーターがある場合はその利用を、非常用エレベーターがない場合はエレベーターに「最寄り階停止装置」を設置した上でその利用をするよう指導して下さい。

(3) 階段室について

階段を上がって地区表示灯の示していた階まで着いたら、「階段を使わない」とコマンドします。すると「焦げた匂いがする」という注意（サイン）が出ます。このサインはこの階が出火階であることを示すと同時に、ある重要な意味を持たせているのです。実は、このサインが出る前に119番通報をしても、消防隊は出勤しないようにしているのです。逆に言えば、このサインが出たら、なるべく早く119番通報をすることが、このゲームで良い成績をとるための秘訣なのです。

(4) 防火戸について

「階段を使わない」とコマンドしてから後ろを向くと防火戸があります。防火戸が閉じている場合は「閉じたドアがありますどうしますか？」とメッセージされますから、慌てずに「開ける」とコマンドすればよいのです。

防火戸が閉じていない場合は、防火戸が見えず、直接廊下側が見えてしまいます。この時、出火場所が階段のそばですと、煙が階段室の中まで入りこんできていることもありえます。

いずれにしても、3でも述べたように、ここで、階段室を煙から守ることの重要性和防火戸の役割等を、十分説明しておいていただきたいと思えます。

なお、防火戸を開けて廊下に出たら、防火戸はまた自動的に閉まる様になっていきます。ために廊下に出てから後ろを振り向くと、防火戸が閉まっていることが判ると思えます。

また、この時煙が来ていますと、防火戸の開け閉めの際に、階段室に少し煙が入ってしまいます。これも実際にもそうなるはずですから、一言説明しておくとも良いかもしれませぬ。

(5) 消火器について

東側の階段室を出るとすぐのところ、消火器が置いてあります。消火器は防災センターから持って来ても良いのですが、東側の階段を使う場合は、ここから持って行く方が合理的でしょう。ところが、西側の場合は事情が違います。西側は、消火器を階段室のすぐそばに置かず、廊下のつきあたりや路の部分をわざわざ作った上に、そのつきあたりや路の部分をわざわざ置いたのです。こちらの場合は、出火場所によっては、火にさえぎられるためこの消火器をとることができず、初期消火をしようと思うと結局屋内消火栓のところまで行って、また引き返さなくてはならない場合が出てきます。

説明の際には、西側の階段位置のまずさ、消火器を置く位置のまずさなどを指摘するとともに、このホテルの場合は、西地区の火災であっても東側の階段を使ったほうが消火器や屋内消火栓の位置関係からするとむしろ有利であること、消火器を今のような位置に置くのであれば防災センターから消火器を持って出る必要があること、実際の場合同様にそのような工夫が有効な場合があること等を話すと良いでしょう。(つづく)